

この合宿は、オリーブ等の自然あふれる香川県・小豆島で、8月17日（水）～19日（金）の二泊三日に渡り、「現場で学ぶ」「人から学ぶ」「地域から学ぶ」「楽しく学ぶ」をコンセプトに執り行われました。参加対象者は本学4学科全てであり、学年も混在していますので、日頃の在籍学科と年齢がクロスオーバーします。結果的に、参加者個々がリーダーシップとメンバーシップを発揮しあいながら、合宿を進めてゆく形となっています。看護学科から今年は、1回生～3回生の5名が参加しました。

初日の午前は、小豆島・福田港から移動先までの途上、マイクロバスの前輪がパンクするというハプニングも体験しました。昼食は、「うどん県」を実感するべく、現地の方々にご指導いただきながら自らが捏ねたうどんに舌鼓を打ち、その後は「エンジェルロード」や「瀬戸内国際芸術祭」を巡り、小豆島という土地の魅力・資源、文化に触れる時間を持ちました。



明けて二日目は医療検査学科学生と共に終日、小豆島中央病院にて病院見学をさせていただきました。島唯一の公立病院として、今春オープンしたての美しく充実した施設を丁寧に見せていただきながら、島民の健康を守る責任を引き受ける意気込みを、職員さんを通して肌で感じ、離島の医療を支えることの広さと深さを学ばせていただきました。



以下、参加学生の見学後のコメントから抜粋します。

- ・これまで、退院後のことまで考えたことが無かったが、退院するだけで終わりではなく、継続して自宅訪問をするなど、看護者が責任を持って関わっていることを知ることが出来た。
- ・島民同士の仲が良いことは利点ではあるが、プライバシーが守られにくいという課題もあり、エレベーターや外来窓口への動線を工夫することで対処している様子を学べた。
- ・少ない専門職数でありながら、患者さん中心の看護を追求しようとしている助産師長の話聞き、私自身も患者さん中心に考えられる看護師になりたいと思った。母子を守る、熱い思いが伝わってきた。



本合宿を展開するにあたり、お盆明けのご多忙な中、役場、病院を始めとする島の方々には、本当にお世話になりました。

この体験が、学生諸君の人生の彩りになることを願います。

看護学科教員 伊東美智子